

求められる がん化学療法の質向上

がん化学療法は、2002(平成14)年からの診療報酬改定と「がん対策基本法」(2006年)に基づく「がん対策推進基本計画」の成立により、社会的にも注目されている。さらに、「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」の改定(2008年3月)では、がん化学療法の提供体制について、緊急時の体制、レジメンの審査などを行なう委員会の設置とカンサーボードとの連携協力、がん化学療法に携わる専門的な知識・技能を有する医師・看護師・薬剤師の配置など、がん化学療法の安全体制の充実と質の向上が求められるようになった。以上のことに関連するだけではなく、多くの病院で、がん化学療法を病棟・外来において安全に実施することは管理上の大きな課題である。

編者である飯野京子氏と森文子氏はがん化学療法看護認定看護師コースに5年間携わってきた経験から、本書のメッセージを、“看護が支える「安全」「確実」「安楽」ながん化学療法”としている。その柱は、次の3点である。

1. 劇薬・毒物である抗がん剤の「安全」取り扱い
 2. 薬の効果を最大限に、患者への負担を最小限にする「確実」投与管理
 3. 不可逆である有害事象を最大限緩和し、長期にわたる治療において患者が「安楽」に過ごせる支援
- 本書はこのメッセージに沿って実践的に活用できるよう構成されている。

治療管理という視点からみた がん化学療法とは

第1章の「がん化学療法を管理するた

めに」では、がん化学療法において治療管理する視点で、治療計画に沿った安全・確実・安楽な投与を行なうことが、がん化学療法看護の中核であると明記されている。ここでは、そのための基礎知識はもちろんのこと、がん化学療法におけるリスクマネジメントについて、事故を未然に防ぐセーフティマネジメントと事故発生後の対策であるエラーマネジメントの2つの視点から語られている。具体的な抗がん剤投与に必要なマニュアルの紹介もあり、がん化学療法のリスクマネジメントに十分に活用できる。また、安全性に関しても、抗がん剤を扱う際の暴露対策のマネジメントについても具体的に記されている。第9章の「主要なレジメンとその看護」では、R-CHOP療法、PE療法など頻度の高いレジメンから分子標的治療薬など新薬のレジメンに至るまで、レジメン別に看護のポイントを各療法の流れ、投与指示例、主な副作用対策、使用薬剤のアセスメント、薬剤投与前・中・後の看護の流れとチェック項目で解説されている。

がん化学療法において、看護師は患者に直接的かつ密接に、治療前・中・後とかかわり、患者を支援していかなければならない。この役割の重要性和前述の社会的背景もあり、ここ数年、がん化学療法看護に関する著書は数多く出版されている。しかし、その中でも本書はがん化学療法を治療管理する視点で構成されていること、さらにイラスト、図表、写真、カラーが豊富に用いられており、わかりやすさと、使いやすさという点でも看護管理者やがん化学療法に直接携わる看護師にお勧めしたい1冊である。



JJN スペシャル No.85
安全・確実・安楽な
がん化学療法ナーシング
マニュアル

飯野京子, 森文子 編
定価 2940 円
(本体 2800 円 + 税 5%)
医学書院
TEL. 03-3817-5657

がん化学療法看護の最新マニュアル!

渡邊真理 神奈川県立がんセンター医療相談支援室

評
BOOK